

Local Industry
地域産業

日出町は今も、人口増加を続ける、県内ではまれな自治体だ。県都・大分市や別府市方面への移動の利便性や豊かな自然環境、おいしい食など、さまざまな魅力がある。「新たな産業を創出し、いっそう町の未来を明るくする」。多彩な分野の活動者たちが“発展の原石”を持ち寄り、実現へと磨きをかけていく。



女性目線で新しい町を演出

女子会の乗りで話そう

吉田 こんにちは。私からみて日出町といえばハーモニーランド。娘が3人いるのでよく訪れてました。大分空港から大分市に戻る途中、日出町に入ると別府湾が見えてきて、大分に帰ってきたという感じがします。まずは皆さんの自己紹介を。

田村 本業は建設業です。今日は男1人の私が“華”(笑)。いいお話ができればと思います。

白水 現在は地域産業に直接関わる仕事をしています。以前まではありませんが、昨年まで総務課に勤務し、商工会や農協、消防団などの女性部が集まる女性団体連絡協議会の設立で事務局として地域振興に関わりました。今日は同年代の異業種の方たちとお会いするのを楽しみにしていました。

河野 この会に備えて日出町を探索してきましたが、いろいろな顔がある町という印象を持ちました。今回は女子会の乗りでいきたいと思っています。

甲元 パワーウェーブはマイクロソフト社の支援を受け、パソコン事業などを通じて子育て中の母親の在宅ワークの支援などに取り組んでいる団体です。日頃はプレスセンター(新聞販売店)で仕事をしています。

小川 日出町産の物を使って体に優しいおやつを作る工房をしています。今後の仕事につながる話があればと思います。



若手リーダー
パティシエ
小川優子 さん

便利で暮らしやすい町

吉田 事前に皆さんから聞いた日出町に関する話をまとめると、「暮らしやすさ」というキーワードが浮かんできました。大分や別府に近い通勤の利便性。日出という名前が象徴する日当たりの良さ。大神地区など風光明媚(めいび)な場所。

県内では数少ない人口が増えている自治体でもあり、暮らしやすさを象徴していると思います。白水さん、日出町の概況、暮らしやすさのバックボーンとなっている取り組みがあれば教えてください。

白水 人口は大分市と日出町だけが増加しています。増加率は段々緩やかになり、高齢化率は上がって不安もありますが、今はまだ増えているのが現状です。日当たりや空気、水の良さなど豊かな自然環境に加え、道路整備も進んでいます。高速道路のインターチェンジが2カ所あり、空港道路が無料化されるなど、企業にとっても魅力があるのではないのでしょうか。賜谷城跡周辺の整備や日出高校跡地の活用など、観光客や交流人口の増加につながる事業もいろいろと展開しています。

小川 県内一という産物はなくても、いろいろな物がまんべんなくとれる。食に関しては申し分ない町です。

甲元 城下かれい'が有名ですが、野菜作りにも力を入れている。もっと知ってもらえるといいなと思うのがかれい'さんある町だと思います。

田村 災害の起きやすい大きな河川も少なく、安心して住める町。農協、漁協、商工会の青年部で月1回、「Kトラ市」(軽トラックなどによるフリーマーケット)を開催していて、お客さんは町民が多いんですが、みんな話し方がのんびり。土地柄か、おおらかな町民性を感じますね。

河野 町民の6割が外部の人という話を聞きましたが、選んで移り住むということですね。国道10号を北上していくと町内には次々と違う表情が出てくる。オーシャンビューが広がり、賜谷城跡周辺は武家屋敷の近くに学校もあるので、土地の歴史と住んでいる人の暮らしが見える魅力を感じました。大神に向かっていくと広い田んぼ



若手リーダー
日出町商工会青年部長
田村 健二 さん

が広がり、稲穂が頭を垂れる風景や漁港が見えてくる。景観が多様で奥深さがあります。

子どもの数で町内格差

吉田 暮らしやすい町といっても、今後はどうなるのか。20年後の日出町を思い描いたとき、どんな町が浮かびますか。

田村 人口は減って、当然、高齢者が増えている。大分や別府の地価が下がってきたとき、人が流れてしまうかもしれない。対策が必要でしょうね。

白水 人口は平成17(2005)年は2万7640人、24(2012)年9月1日現在で2万8896人と増え続けており、3万人の町を目指しています。高齢化率は上がっていきっていますが、若い人が定住してくれるような対策を練っていききたいです。

甲元 子供会の行事が成り立たない地区がある一方で、子どもが増えている地区もあり、町内の格差を感じます。旧商店街といわれる所に住んでいます。空き家が増えている。役場や銀行、スーパーもあって便利なので、何か対策を講じたい。

河野 人口推計の資料では、日出町は平成42(2030)年に減少に転じる見通しです。平成22(2010)年の高齢化率は24%ですが、例えば津久見市は40%。県北地域は50年かけて対策を打たないと子どもが増えないという厳しい現実もある中で、日出は早く手を打てば間に合う。行政は子育て支援と高齢者支援の両方に力を入れていく必要があります。

“井戸端会議”活用して

吉田 現時点での町の子育て支援策は。

白水 核家族化が進み共働き家庭が増えてい

るので、各小学校に放課後に子どもを預かる居場所をつくる取り組みなどを進めています。

甲元 日中は家にいるママたちが集える場所が少ない。子連れだと堅苦しく、騒いではいけないような場所は入りづらいので、オープンカフェのような場所が欲しい。そこで地元の食材を生かすこともできたらいいなと、仲間と計画を練っています。

吉田 暮らしやすい、子育てしやすい環境をつくるのが人口減少の歯止めになり、新しい産業を生むかもしれない。起業したいという人は周りにいますか。

甲元 気持ちや能力がある人はたくさんいると思います。実際に起業する時には資金面など、いろいろなハードルがあるので、みんなで協力して負担がないうような形で成り立つ仕組みができればいいなと。

吉田 日出町は連携を取りやすい地域ですか。

小川 農業、漁業など、それぞれが固まっている印象があります。

田村 Kトラ市を始めて3年目。各自、各団体は物事を真剣に考えているんですが、どうまとまっていくかは課題ですね。

河野 既存の組織や団体の多くは男性がつくってきたもの。女性的なやり方で横のネットワークを広げることができれば、物事が発展的に動くんじゃないでしょうか。例えば小川さんのお菓子作りのスキル、甲元さんのネットワーク、田村さんはKトラ市を通じた流通販売、白水さんは行政としてつなぐ。4人がやろうと言えば、新しいことができそう。小川さんのお菓子は子どもに安心して食べさせることができるといことを広めるために、お母さんたちの“井戸端会議”でニーズのマーケティングをし、販売する時には、日出町で子育てをしているお母さんたちが考えたおやつ



若手リーダー
日出町税務課副主幹
白水由希子 さん



若手リーダー
パワーウェーブ日出会員
甲元真梨 さん

という物語を付加価値にすると、日出の新しいお菓子になるのではないかと思います。

開発した「かれい焼き」

小川 地域の農家から「これを使ってお菓子を作って」と依頼を受けることは多いんですが、分からないことも多く、旬を逃して試作すらできないこともありました。いろいろな意見をもらえるとありがたいですね。

河野 こういう育て方をした野菜を使ったら発信していけば、人気が出る可能性があります。Kトラ市に出店すれば、お母さんたちも集まりそう。

田村 青年部で昨年、日出町の特産品をつくらうと「かれい焼き」(城下かれいの形をしたたい焼きのようなおやつ)を作り、Kトラ市に試作品を出しました。そこで意見を聞いたつもりでしたが、今思えば、小川さんのような専門的な人にも意見を聞けばよかったなと。

甲元 Kトラ市に行ってみて買い物も触れ合いも楽しかったので、出店者が増えてほしいと、手芸が得意な人などに声を掛けたりしています。ただ朝8時にスタートというのは子育て中の人にはつらい。お昼をまたぐと飲食店の出店もしやすそう。

田村 Kトラ市は宮崎県川南町がモデルで、ここは規模がすごいんです。商店街を歩行者天国にして、130台くらい軽トラックが並ぶ。

吉田 ホームページで見たらお祭りのようににぎわいでした。口蹄疫被害からの復興のシンボルということで盛り上がっていて、宝探しのような感覚で見る人も多いとか。

田村 詰め放題やつかみ放題など魅力的な企画が多く、こういうものが日出でもできないかと始めました。当初は40台くらいでしたが、今は減っています。

企画からお母さん参画

河野 出店者はどうやって集めているんですか。

田村 町報とか、口コミとか。

甲元 回収板もありますよね。わくわくするチラシだともっといい。

田村 予算の関係もあるし、どうすれば規模を拡大できるかがまだ分かっていません。

甲元 会場内に子どもを預ける所があれば出店しやすいという声は聞きました。

吉田 小川さんはどんな環境ならできそうですか。

小川 私はほぼ1人で作っているんで、販売をやってももらえるなら、農家も同じだと思います。

田村 青年部が手伝うことはできそうです。

吉田 女性目線でKトラ市をプロデュースするつもりで、他に意見はありませんか。

田村 例えば場所とか。私は商店街でやりたいという思いがあるんです。かつては定期的に夜市をしていてにぎやかだったという記憶もあるので、そういうのも復活させたい。

河野 お母さんたちが企画から加わることはできるんですか。

出店者を集めたり、陳列や商品構成のアイデアを出すとか。女性が加わって改善できることはあるんじゃないでしょうか。

甲元 ボランティアで音楽イベントをやってもいい。まずは来やすい雰囲気をつくるとか。

田村 中学校の brass バンド部に年2回くらい来てもらっていますが、保護者が集まるんですよ。

河野 大分市西部で9月、ある地元のお祭りを盛り上げようと、料理を学ぶ高校生による「高校

生レストラン」という企画がありました。友達が友達を呼んで人が集まってくる。ターゲットを狙った企画は勉強になりました。

田村 女性目線のアイデアは欲しいので、今後企画の話し合いに参加してください。

まず自分から情報発信

吉田 Kトラ市をきっかけに横の連携をつくっていくことはできそうですね。町も元気になるし、商店主の力にもなる気がします。小川さんは皆さんにアドバイスを受けたことはありませんか。小川さんに県外からお客さんを招いた時、どこを案内するかを尋ねたら、無人販売所と答えたのが印象的でした。

小川 取り引きしている農家の産物と、それを私が加工した商品をインターネットで売ろうと話したりしていますが、まだ分からないことが多くて。

吉田 自助努力の時代ですが、資金面や労力などの問題がありますよね。行政が背中を押すことも大切だと思います。

河野 行政がアンテナを高く持って、国や各種団体の役立ちそうな制度の情報検索をして提供することも支援になります。

甲元 ブログやフェイスブックなども活用して、まずは自分から発信していかなくては。パワーウェーブでお菓子教室をしてみるのはどうですか。知り合うと商品を手に取ることにつながりそう。

河野 小川さんは1人で商品企画や作業をしていて手いっぱいということですが、いろいろなことができそうなのにもったいない。起業に携わりたいという女性はたくさんいるので、仲間ができるといいですね。小川さんが頭脳となって、違う人が売る。地元の産物を使うという背景がしっかりしている取り組みは、みんなに夢を与えられると思います。

危機意識を持って連携

吉田 磨いていけば一つの産業になりそうなお話ですね。女性が元気になれば、町も元気になります。さて、これまで暮らしやすさの向こうに新たな産業があるのではないかと話をしてみました。議論全体を通しての感想をお願いします。

小川 今までは自分さえ頑張ればと思っていたんですが、発信していかないと前に進まないと思いました。皆さんと協力していきたいです。

甲元 日頃から日出で暮らす人のためになることをしたいと考えています。今日の新しい出会いで、日出はまだまだ盛り上がっていきそうという気分になりました。

白水 町の資源を生かした皆さんの取り組みを聞き、もっと活性化させるには横の連携が必要だと感じました。どんどんアイデアが出てくるこういう機会をつくるのは行政の仕事ですね。

田村 各団体や個人はいい考えを持っている。それを合わせれば商売にも町の活性化にもプラスになる。これからは将来への危機意識も持って連携を深め、日出町の未来につなげていきたい。

河野 地域連携の日出モデルをつくってほしい。今後も皆さんと連絡を取り合っていきたいです。

吉田 次の約束も取り付けることができたのは大きな成果だと思います。新しい産業を興すのは難しい時代ですが、それぞれの足元に種は落ちているようです。



コーディネーター
大分合同新聞記者
吉田正史



アドバイザー
大嶺経済経営研究所 主任研究員
河野祐子 さん

飲酒は20歳をすぎてもから。



賜谷城から別府湾を望む

この風景が、原材料。

萌え出る光が水面に輝く、おだやかな風景。

鹿鳴超(かなごえ)の山々から吹きわたる風、清冽な水。

みがかれた技術とこのまちの風土が、うまい酒をはぐくむ。

はるか昔から続いている、日出町の自然の息吹。

陽が昇り、陽が沈むように、時は流れて通り過ぎてても

変わらないふるさとの景色がある。

大分
おぎ焼酎
二階堂

二階堂酒造有限会社 大分県速見郡日出町川崎



むぎ100%